第２話

農ガール
タカパン奮闘記！

高井（たかい）　文子（あやこ）さん

タカパン達を応援して下さっている皆様ありがとうございます。前号に引き続き、タカパン奮闘記をご愛読ください。

◆

【どんな農地ですか？】

「とにかく石が多く、耕耘の度にトラクタの刃が何本も折れてしまいました。ですから、ひたすら石を拾うのですが、ちっとも減っている気がしません。また、畦が広く急斜面なので草刈りに時間がかかり、時には転げ落ちて大怪我する人もいるくらい危険です。なので、上手く管理できていないのが現状です。さらに畑が痩せていて、堆肥を入れてもスイートコーンはこどもサイズ。ホウレンソウ、コマツナも大きくならないまま途中で生長が止まってしまいます」と語ります。有機栽培をしたくて就農しても、はじめから条件のいい畑は貸してもらえない現状があり、タカパンも苦労しています。しかし、全借地の2割を占める畦を草刈りするだけというのはもったいないので、二年目からは畦＝畑と捉え、斜面にカボチャを這わせ、野菜を育てることにしたとか。さらに、石対策として、田んぼはごく浅く耕耘、畑にはトラクタを入れない方法に切り替えたそうです。

発想を転換して、畦を農地として有

タカパンの叔母さんが手作りしてくれた看板

ひたすら拾った石

効活用したり、畑にトラクタを入れないようにするなどの臨機応変な対応は、研修で培ったものでしょう。

一年目の野菜の出来具合は、米・エダマメ・トマト・ナス・サツマイモ・ジャガイモ・ダイコン・ニンジン・レタスは比較的良く、スイートコーン・ピーマン・ホウレンソウ・コマツナ・カブ・カボチャ・大豆・タマネギは全くダメだったそうです。

【販売について】

インターネットでの販売が主力ですが、その他に個人宅配や、近所のスーパーでの取り扱いをしてもらっています。パソコンが苦手なタカパンは、相棒のダーナがSNS（https://www.facebook.com/chutowa/）やウェブサイト（http://chutowa.wixsite.com/chutowa）を担当してくれてとても助かっているそうです。「個人宅配は少量多品目なので、野菜の種類とお客さんの数だけ、出荷作業の手間がかかります。就農する前には、少量多品目をあきらめて途中から中品目、単品目に切り替える就農者が多いと話をよく聞いていましたが、その気持ちがとてもよくわかるようになりました。しかし、その複雑さが面白さでもあると感じています」さらに続きます。「個人宅配は、最初は私達二人の友人と親戚のみでしたが、お客さんの間で紹介もあり、少しずつ増えています。近所のスーパーや自然食品店には飛び込み営業をかけて取り扱っていただく様になりました。そのお店で買ったチュトワの野菜やお米を食べて直接連絡いただき、個人宅配につながったこともあります」と語ってくれました。

そんなタカパンのこだわりは、生き物の住みやすい農地を作り、大事な人に食べさせたい野菜・届いて楽しい野菜を栽培し、極力ビニールマルチやビニール包装を使わないことです！

【生活について】

薪風呂付の古民家は、床が抜けたり、風の強い日には風通しが良すぎるため家の中で物がバタバタ倒れたり、玄関を開けたら家の中をタヌキが

2017 年夏の野菜セット

通学路に面しているため
電柵に付けた看板

2017 年度の当センター本科研修生と
一緒に出荷作業

急斜面の畦

畑から富士山を望む絶好のロケーション

手入れし放題の自宅（右：老朽化で抜けた床）

歩き回っていたりするのは困ると語ります。元養蚕農家の古民家を借りられたので、蔵や土間があり助かっていますが、古いだけに、補修をしながら住んでいるそうで、「手を入れ放題が楽しめる家ですよ！」と笑いながら話をしてくれました。

手入れを楽しむためなのか、本格的に手入れをしなければならないのか？ダーナは冬の間に大工さんに弟子入りし、大工技術を学んだそうです。

経済的には、生活と生業が一緒になっている暮らしなので切り離しにくい部分もあるとのことですが、ＮＰＯで働いている時よりは厳しいのが現実のようです。お米や野菜を栽培しているので食べることには困らなくても、販売が厳しければ現金収入がありません。そんな時は、バイトをしているダーナが頼りになるのです。

タカパン奮闘記を企画した筆者は、研修

土間を作業場に改装
（上：入居直後、下：現在の様子）

八ヶ岳をバックに田植え

近所のスーパーに出荷しているエダマメ

オーガニックファーム　チュトワ
〒 409-1501　山梨県北杜市大泉町西井出 4571-1
HP　http://chutowa.wixsite.com/chutowa
FB　https://www.facebook.com/chutowa/
Mail　chutowa210@gmail.com

を修了した方々を紹介しながら応援していただきたいと考えて、〝大変だったこと〟や〝苦労〟という質問ばかりしていましたが、タカパンからは「本当に苦労だと思う苦労はない」と言われてしまいました。そして続けて話します。「近所の人がとても親切で、何かと気にかけてくれて、困っているのを見ればすぐに手助けしてくれます。トラクタも農地の近所の人が貸してくれます。畑で軽トラがぬかるみにはまれば引っ張り上げてくれるし、スコップで水路を掘っていたらミニショベルカーを貸してくれました。管理機やバインダーはプレゼントしていただきました。家の補修を手伝ってくれる大工さんもいます。タカパンやダーナの家族や友人の助けもあります。なにより、相棒のダーナがいるというのは、物理的、精神的に大きな助けになっています！」と。

◆

近年ではご近所付き合いもない方が増加していると聞きますが、タカパンは周りの人に助けられながら、そしてかかわり合いながら生活しているんだと感じることができました。研修中の8か月間ですが、一緒に勉強したタカパンやダーナがとても大きく成長しているんだとも感じました。

次回は、タカパンの相棒ダーナの紹介をしていきたいと考えています。ダーナから見たタカパンや農的生活はどのように見えているのでしょうか？　私も早く知りたいです（笑）。

（研修課　千嶋 英明）